

伏見城跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

伏見城跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたびマンション建設工事に伴う伏見城跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

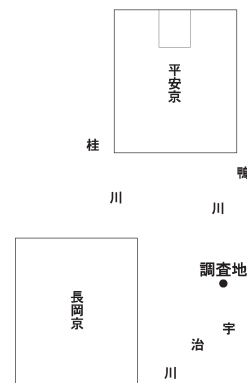
末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

平成 17 年 5 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 伏見城跡
- 2 調査所在地 京都市伏見区下板橋町・鷹匠町・竹中町
- 3 委 託 者 株式会社長谷工コーポレーション関西
取締役建設部門担当 長谷川 厚
- 4 調査期間 2005年1月11日～2005年3月25日
- 5 調査面積 766 m²
- 6 調査担当者 平尾政幸
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「丹波橋」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 土器類・土製品、瓦類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 16 基準点測量 宮原健吾
- 17 本書作成 平尾政幸
- 18 編集・調整 児玉光世・近藤章子・山口 眞



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	3
3. 遺 物	9
4. ま と め	16

図 版 目 次

図版1	遺構	1	第1面全景（北から）
		2	第2面全景（北から）
図版2	遺構	1	竪穴SB564（東から）
		2	炉跡SX400掘り下げ前
図版3	遺構	1	溝SD287（西から）
		2	柵1（西から）
		3	柵2（北から）
図版4	遺物	桃山・江戸時代前期の土器類1	
図版5	遺物	桃山・江戸時代前期の土器類2	
図版6	遺物	瓦類	

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査前全景（北から）	2
図3	作業風景（北から）	2
図4	試掘トレンチと調査区配置図（1：1,000）	2
図5	SB564実測図（1：50）	3
図6	東壁土層図（1：100）	4

図7	遺構平面図（1：300）	6
図8	SD287 断面図（1：50）	7
図9	柵1・2実測図（1：100）	7
図10	SX400 実測図（1：50）	8
図11	奈良時代の土器実測図（1：4）	9
図12	桃山・江戸時代前期の遺物実測図-1（1：4）	10
図13	桃山・江戸時代前期の遺物実測図-2（1：4）	11
図14	SK71 出土瓦器甕実測図（1：8）	11
図15	SK207 出土遺物実測図-1（1：4）	13
図16	SK207 出土遺物実測図-2（1：4）	14
図17	鞆羽口実測図（1：4）	15
図18	瓦類拓影・実測図（1：4）	15

表 目 次

表1	遺構概要表	8
表2	桃山・江戸時代前期の土器類構成	9
表3	江戸時代後期の土器類構成	12
表4	遺物概要表	16

付 表 目 次

付表1	奈良時代の土器類一覧表	17
付表2	桃山・江戸時代前期の土器類一覧表	17
付表3	SK207 出土土器類一覧表	22

伏見城跡

1. 調査経過

調査地は、京都市伏見区下板橋町・鷹匠町・竹中町に所在する酒造会社の工場跡地である。当地は桃山時代から江戸時代の伏見城城下町西端部付近に該当し、付近には町名の由来ともなった竹中貞右衛門や佐々信濃守などの武家屋敷の推定地が点在する。また、下板橋通を隔てた敷地北側には、奈良時代前期の寺院、板橋廃寺の推定地が所在する。周辺ではこれまでに、当地の南方約100mの伏見中央図書館や、その南でのマンション建設、そして北西約200mの呉竹文化センター建設に伴う発掘調査などが実施されており、桃山・江戸時代の遺構や、一部では平安時代の遺構が検出されている。板橋廃寺については、京都市立伏見板橋小学校内で発掘調査が実施されているが、明確な遺構は検出されていない。

発掘調査に先立ち、京都市埋蔵文化財調査センターにより、遺構確認のため7箇所のトレンチを設定し試掘調査が実施された。その結果、敷地東寄りの5区および6区で遺構が確認されたため、この2つの試掘トレンチを中心に東西約13m、南北約60mの調査区を設定し、発掘調査を実施

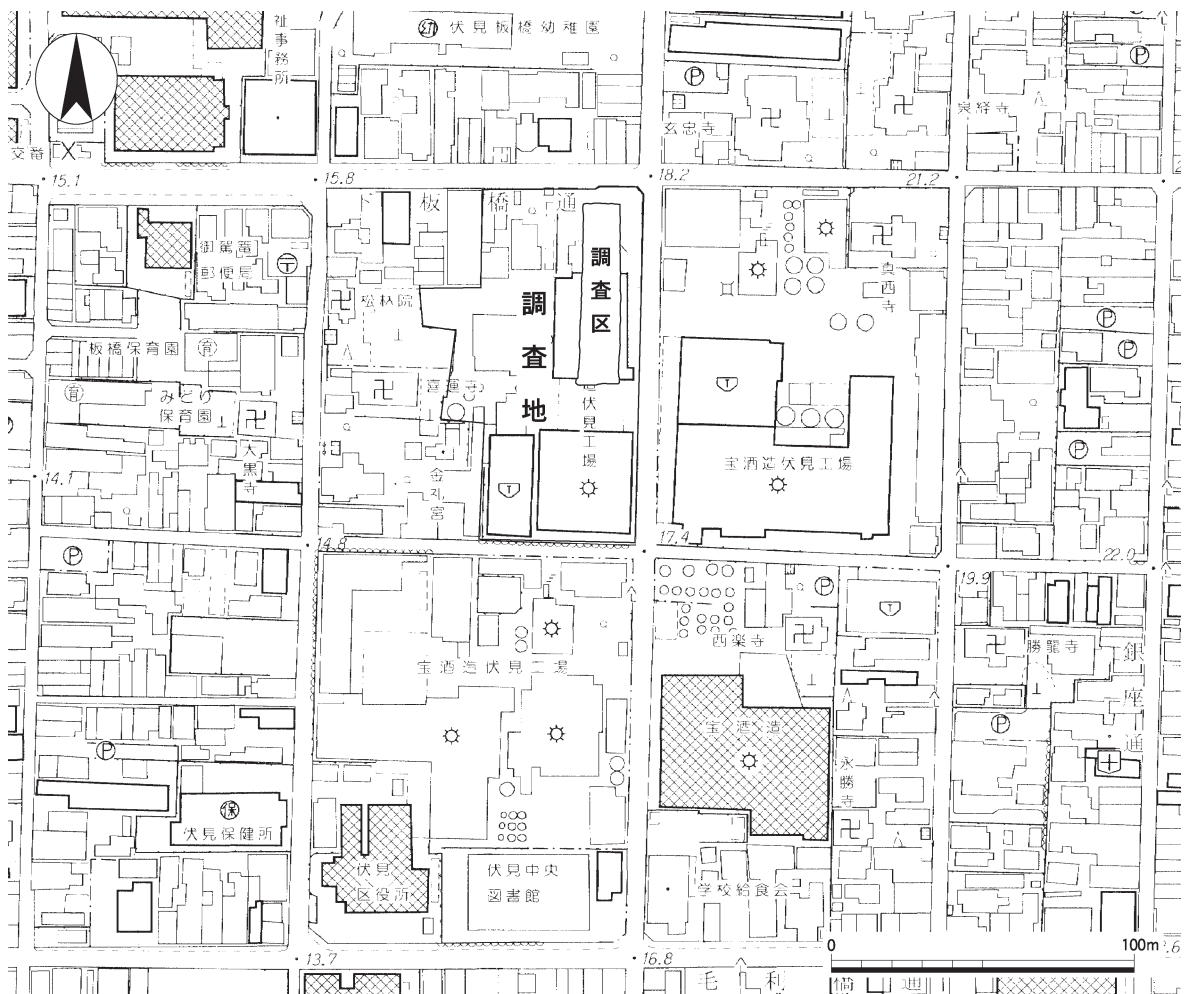


図1 調査位置図 (1 : 2,500)



図2 調査前全景（北から）



図3 作業風景（北から）

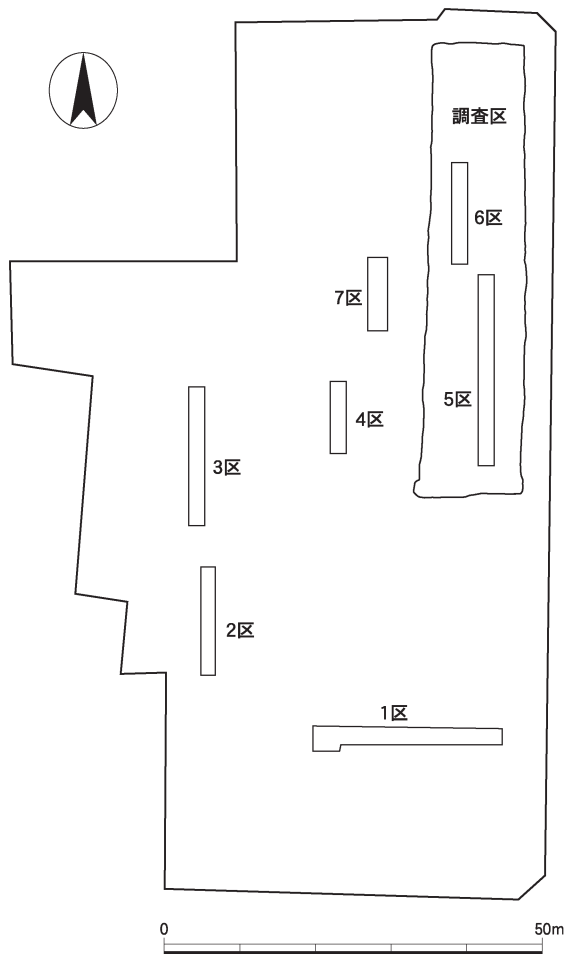


図4 試掘トレンチと調査区配置図（1：1,000）

した。

上部の近現代層を重機で排除し、その後、江戸時代後期・桃山時代から江戸時代前期の2面について調査を行った。調査区北部では、江戸時代後期の土層はほとんど認められず、現表土下約0.6mで桃山時代から江戸時代前期の土壌や小柱穴群および少数の奈良時代の土壌などを検出した。調査区中央部では、江戸時代前期や後期の土取などで遺構面が著しく削平されていたが、奈良時代の竪穴住居を1棟検出した。また南部では、桃山時代の東西方向の溝や東西および南北方向の柱穴列などを検出した。

2. 遺 構

現表土下約 50 cm までが近・現代層で、その下部に江戸時代後期の土層を検出した。この層は厚さ約 20 cm 前後で、それを取り除いた表土下約 70 cm 前後で桃山時代から江戸時代前期の遺構を検出した。また、この面では奈良時代の遺構も検出している。ただし、このような堆積状況が確認できたのは、調査区北端から約 15 m 付近までに限られ、それ以南では工場施設の撤去工事によって表土下 1 m あるいはそれ以上破壊されている部分も多く、調査区の南約 3 分の 2 の範囲では、現代層を排除した時点で桃山時代から近代までの遺構を同一面で検出した。地山は、北部および南部では砂層が主体だが、調査区中央部では粘性の強い黄褐色砂泥が厚く堆積しており、これを採取したと思われる土取跡が多数確認できた。

今回の調査で検出した遺構は総数 577 基で、このうち出土遺物などから時期の判明したものは 336 基である。時期別にみると、奈良時代のものが 13 基、桃山・江戸時代のものが 152 基、江戸時代後期のものが 148 基、近・現代のものが 26 基である。主要な遺構について概説する。

竪穴 SB564 (図 5、図版 2-1) 調査区中央部やや北寄りに検出した奈良時代の住居跡。平面形は一辺約 4 m の方形で深さは約 0.2 m。明瞭な床面や壁溝は認められない。約 1.9 m 間隔で計 4 基の柱穴を検出した。

土壙 SK372 調査区北部東壁沿いに検出した南北 0.6 m、深さ 0.1 m 程の皿状の土壙で、土師

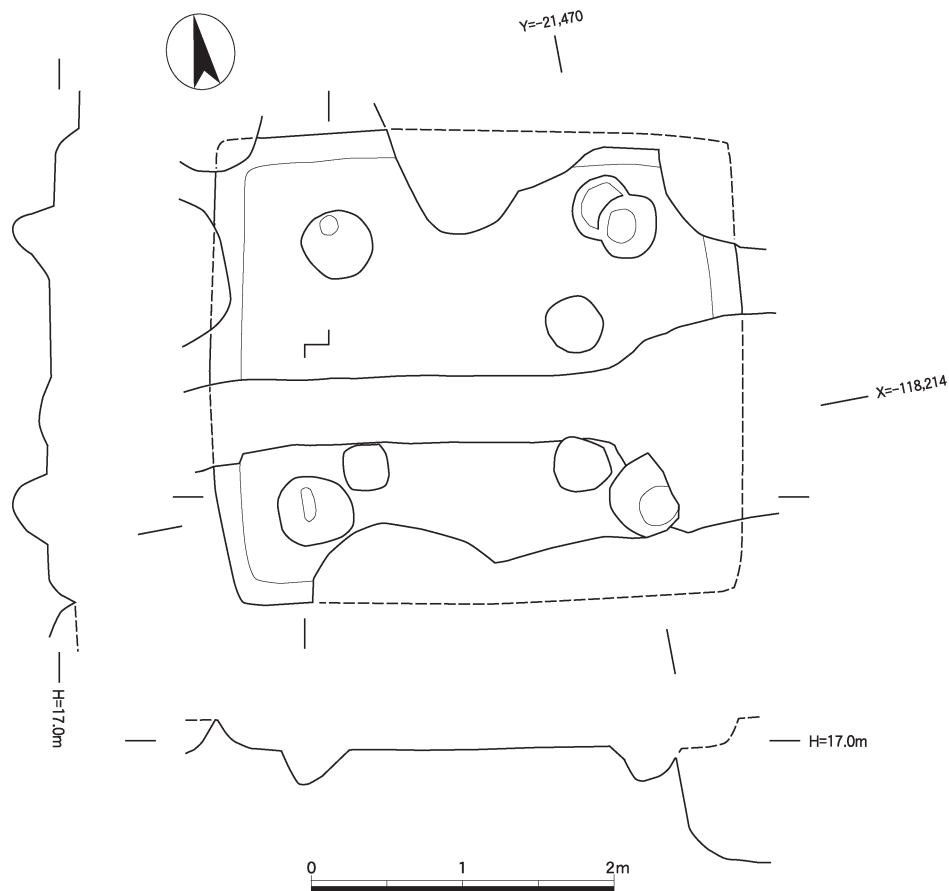


図 5 SB564 実測図 (1 : 50)



図6 東壁土層図 (1:100)

1	現代層		
2	現代層		
3	攪乱		
4	10YR1.7/1黒色砂泥	炭化物を多量に含む	
5	10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥	10YR5/6黄褐色砂泥混	
6	10YR3/2黒褐色砂泥	瓦・炭化物・漆喰片混	
7	漆喰片		
8	10YR3/3暗褐色砂泥	瓦片混	
9	10YR3/2黒褐色砂泥		
10	10YR3/3暗褐色砂泥	瓦片混	
11	10YR3/3暗褐色砂泥	7.5YR4/4褐色砂泥が糊状に混	
12	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	7.5YR4/4褐色砂泥が糊状に混	
13	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓少量含む	
14	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
15	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
16	10YR4/2灰黄褐色砂泥	漆喰片混	
17	10YR3/3暗褐色砂泥	焼土混	
18	10YR3/4暗褐色砂泥	焼土混	
19	10YR3/1黒褐色砂泥	10YR3/3暗褐色砂泥が複合	炭化物含む
20	10YR3/2黒褐色砂泥	10YR5/6黄褐色粘質土が混在	瓦・鉄滓・陶磁器混
21	10YR3/1黒褐色砂泥	7.5YR4/3褐色砂泥・10YR4/2灰黄褐色砂泥混	
22	10YR2/2黒褐色砂泥	炭片・土器・鉄滓・糊羽口を多量に含む	
23	7.5YR4/4褐色砂泥	鉄滓少量含む	
24	10YR3/2黒褐色砂泥	鉄滓・炭化物を多量に含む	
25	10YR4/4褐色砂泥		
26	2.5Y6/2灰黄色泥砂	10YR4/2灰黄褐色砂泥・草礫混	
27	10YR5/4にぶい黄褐色細砂		
28	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	2.5Y7/2灰黄色粘質土ブロック混	
29	2.5Y6/4にぶい黄色細砂	7.5YR4/4褐色砂泥が同量混じり合う	
30	7.5YR4/4褐色砂泥		
31	10YR3/3暗褐色砂泥		
32	10YR3/4暗褐色砂泥		
33	7.5YR4/4褐色砂泥		
34	10YR4/2灰黄褐色砂泥	鉄滓含む	
35	10YR3/2黒褐色砂泥		
36	10YR4/2灰黄褐色砂泥		
37	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
38	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
39	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
40	10YR2/2黒褐色砂泥		
41	10YR2/3黒褐色砂泥		
42	10YR3/3暗褐色砂泥		
43	10YR2/2黒褐色砂泥		
44	10YR3/2黒褐色砂泥		
45	10YR3/3暗褐色砂泥		
46	10YR4/4褐色砂泥		
47	炭層	2.5Y6/3にぶい黄褐色粘質土ブロック混	
48	10YR3/1黒褐色砂泥	鉄滓・炭化物・瓦含む	
49	10YR3/1黒褐色砂泥		
50	10YR6/4にぶい黄褐色細砂	10YR4/2灰黄褐色細砂・炭化物混	
51	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	2.5Y7/3浅黄色粘質土ブロック混	
52	10YR3/1黒褐色砂泥		
53	10YR3/2黒褐色砂泥		
54	10YR6/6明黄褐色粘質土		
55	10YR5/6明黄褐色砂泥		
56	10YR4/3黄褐色砂泥	10YR4/4褐色粘質土・10YR2/3黒褐色砂泥が層状	
57	土蔵基礎の版築		
58	土蔵基礎の版築		
59	10YR3/2黒褐色砂泥		
60	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物多量に含む	
61	10YR3/2黒褐色砂泥		
62	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥		
63	10YR3/2黒褐色砂泥		
64	10YR3/1黒褐色砂泥	瓦・炭化物混	
65	2.5Y3/1黒褐色砂泥		
66	10YR6/6明黄褐色砂泥	7.5YR4/4褐色砂泥が互層状に混	
67	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓・糊羽口少量含む	
68	10YR3/1黒褐色砂泥	10YR3/2黒褐色砂泥・10YR5/4黄褐色砂泥の互層	
69	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓・瓦・貝殻多量含む	
70	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓・瓦・貝殻・土器を多量に含む	
71	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓・瓦・貝殻・土器混	
72	10YR4/2灰黄褐色砂泥	瓦・糊羽口・炭化物・鉄滓混	
73	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物少量含む	
74	10YR3/1黒褐色砂泥	焼土ブロック・炭化物混	
75	10YR3/1黒褐色砂泥	鉄滓・炭化物混	
76	10YR2/2黒褐色砂泥	糊羽口・炭化物・鉄滓混	
77	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物少量混	
78	10YR3/2黒褐色砂泥	20～50mmの礫混	
79	10YR3/3暗褐色砂泥	20～50mmの礫多量に含む	
80	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物・鉄滓少量含む	
81	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物少量混	
82	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物少量混	
83	10YR3/3暗褐色砂泥	炭化物・鉄滓微量混	
84	10YR3/1黒褐色砂泥		
85	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
86	10YR3/4暗褐色砂泥		
87	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
88	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
89	10YR3/2黒褐色砂泥		
90	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
91	10YR3/3暗褐色砂泥		
92	10YR3/2黒褐色砂泥	10YR5/4にぶい黄褐色細砂糊状に混	
93	10YR3/1黒褐色砂泥	炭化物少量混	
94	10YR4/2灰黄褐色砂泥		
95	10YR5/4にぶい黄褐色細砂	140層と同質	
96	10YR3/3暗褐色砂泥		
97	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥混	
98	10YR3/4暗褐色砂泥		
99	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
100	7.5YR4/4褐色砂泥		
101	10YR4/2灰黄褐色砂泥	上部に炭化物	
102	7.5YR4/4褐色砂泥		
103	10YR4/4褐色砂泥		
104	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
105	10YR3/3暗褐色砂泥		
106	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	104層よりやや明るい	炭化物混
107	10YR4/4褐色砂泥		
108	10YR4/2灰黄褐色砂泥		
109	10YR4/1褐灰色砂泥	炭化物が帯状に混	
110	10YR3/2黒褐色砂泥	炭化物混	
111	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
112	10YR3/4暗褐色砂泥		
113	10YR4/2灰黄褐色砂泥	炭化物少量混	
114	10YR4/3にぶい黄褐色	下部は10YR5/4にぶい黄褐色細砂	
115	2.5Y6/2灰黄色細砂		
116	10YR3/4暗褐色砂泥	炭化物混	
117	10YR3/3暗褐色砂泥	炭化物混	
118	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
119	10YR3/3暗褐色砂泥		
120	10YR5/3にぶい黄褐色砂泥		
121	10YR5/3にぶい黄褐色砂泥		
122	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥		
123	10YR5/3にぶい黄褐色泥土	下部に30～70mm程度の礫含む	
124	7.5YR4/4褐色砂泥	炭化物・土師器片混	
125	10YR2/3黒褐色砂泥	炭化物混	
126	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
127	10YR5/6黄褐色粘質土		
128	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
129	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥		
130	炭層		
131	10YR3/4暗褐色砂泥		
132	10YR5/6明褐色砂泥	10YR5/4にぶい黄褐色砂泥混	
133	7.5YR4/4褐色砂泥		
134	10YR4/6褐色砂泥		
135	7.5YR3/3暗褐色粘質土	136層より明るい	
136	7.5YR3/3暗褐色粘質土		
137	7.5YR3/3暗褐色粘質土		
138	7.5YR3/3暗褐色粘質土	137層より明るい	
139	10YR4/2灰黄褐色粘質土	10YR5/4黄褐色砂泥・炭化物が帯状に混	
140	10YR5/4にぶい黄褐色細砂	小礫多量に含む	地山

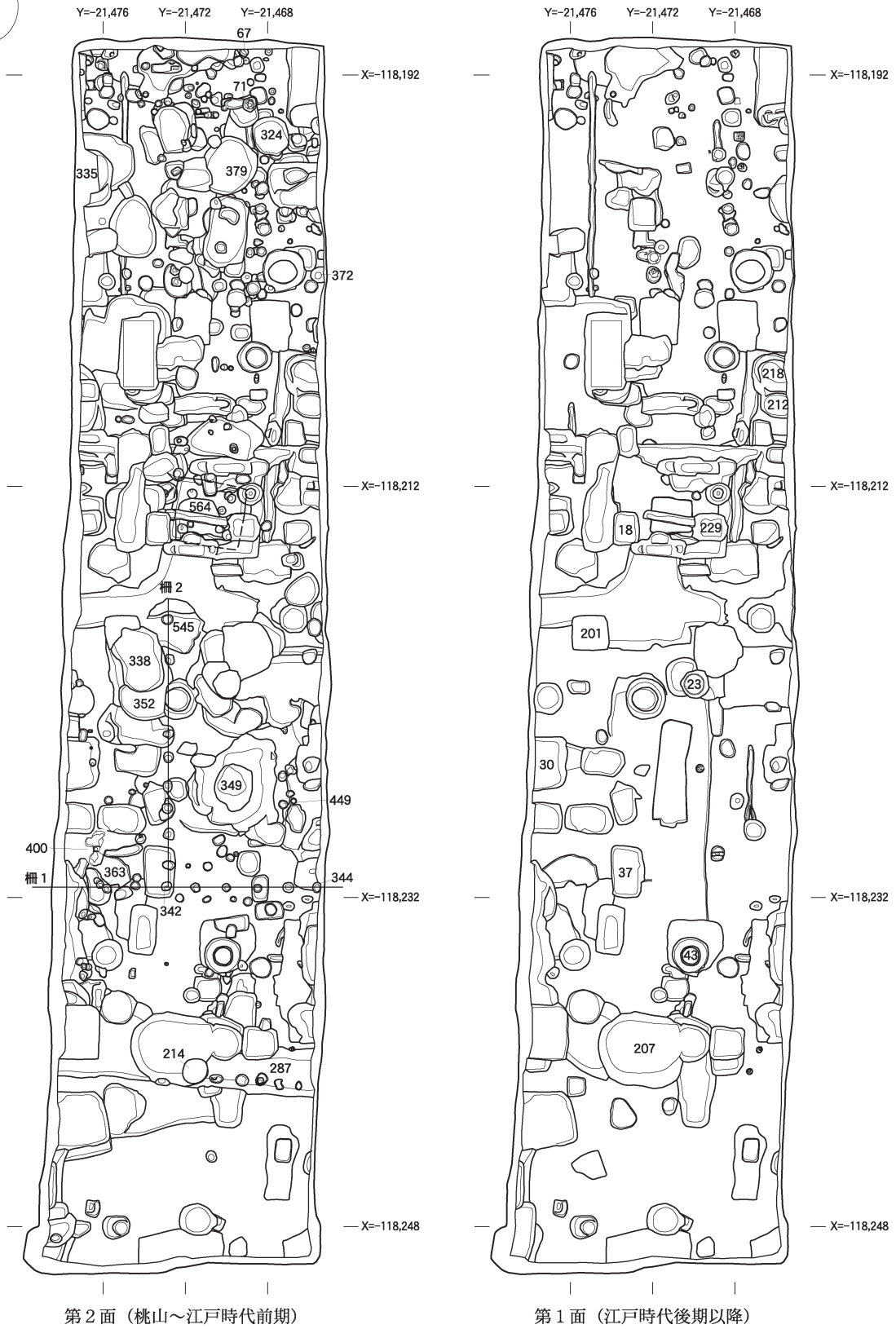


図7 遺構平面図 (1 : 300)

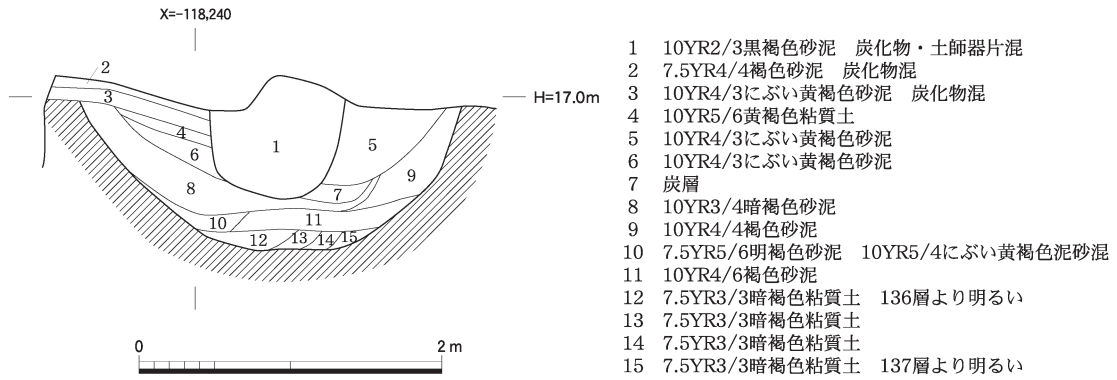


図8 SD287 断面図 (1 : 50)

器皿・杯、須恵器甕片など奈良時代前期の土器類が出土している。

井戸 SE335 調査区北部西端で検出した井戸。東半分のみを確認。掘形は検出面では南北 3.1 mだが南側に約 0.7 mの段があり、それより下方は 2.0 mとなる。深さは 2.4 m。構造は不明である。17 世紀初頭の土器類が出土している。

井戸 SE214 調査区南部に位置する井戸。上部を江戸時代後期の土壌 SK207 に切られており約 1.2 m程が残存していた。掘形は径 1.2 mの円形。石材などは残っておらず構造は不明である。17 世紀中頃の土器類が少量出土。

溝 SD287 (図 8、図版 3- 1) 調査区南部で検出した東西方向の溝。西半の北肩部が土取りで壊されていたが、調査区の東西幅いっぱいの約 12 mを確認した。幅約 2.5 m、深さ 0.9 mで、東半では底部南寄りに約 0.8 m間隔で Pit が並ぶ。

柵 1 (図 9、図版 3- 2) SD287 の約 8 m北側に検出した東西方向の柱穴列。柱間は 1.45 m等間で 7 間分を確認した。柱掘形は径 0.3 m前後で深さは Pit342 を除く他は 0.4 ~ 0.5 m。

柵 2 (図 9、図版 3- 3) 柵 1 の柱穴列の西から 3 基目の Pit342 から北へ延びる南北方向の柱穴列。柱間は 1.15 ~ 1.9 m と不揃いだが、Pit342 が他の Pit に比べ 0.8 mと非常に深く掘り込まれており、この部分で東西方向の柱穴列に接続していたものと思われる。

炉跡 SX400 (図 10、図版 2- 2) 調査区中央やや南寄りの西壁沿いに検出した炉 (竈?) 跡。平面形大小の円形を南北

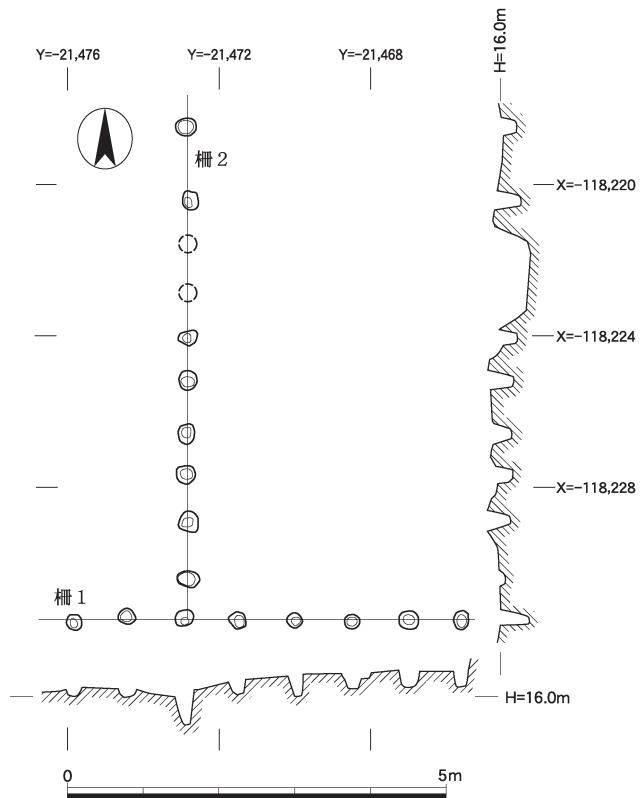


図9 柵列1・2実測図 (1 : 100)

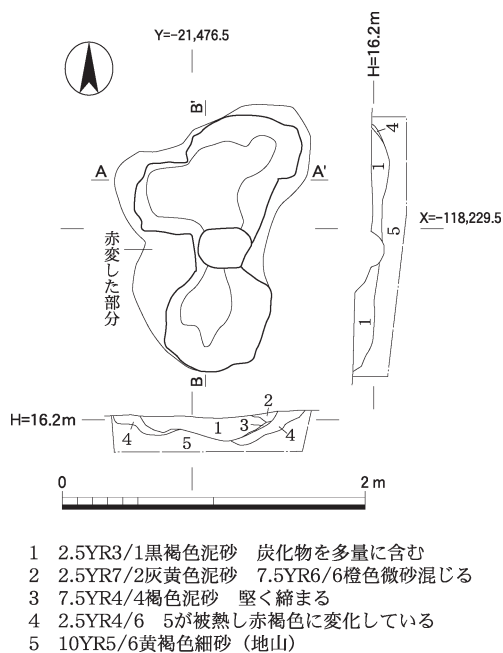


図 10 SX400 実測図 (1 : 50)

SK18・30・37・201・229 など平面形が方形の整ったものが多い。埋土に多量の鉄滓・炭化物・鞆羽口を含む。これらの土壌は整った平面形に対して、底部の形状が下層の遺構を避け、暗褐色と茶褐色の粘質土だけを掘りとった結果変則的になったものが多いことから、新規炉材構築用の土取りと廃棄炉材や鉄滓の廃棄を兼ねて掘られたものと思われる。

土壌 SK207 調査区南部で検出した。東西 4.0 m、南北 3.5 m、深さ 2.1 m と規模が大きく、土器類を多量に含んだ暗灰色の粘質土が堆積していた。炉材などを廃棄した土壌群とは性格を異にする土壌である。

表 1 遺構概要表

時 代	遺 構
奈良時代	竪穴住居SB564、土壌SK372など
桃山・江戸時代前期	土壌SK71・324・338、溝SD287、井戸SE214・335、柵 1 (Pit344・363など)、柵 2 (Pit342・545など)、炉跡SX400、Pit67・379・449など
江戸時代後期	土壌SK30・37・201・207・212・218・229など
近・現代	井戸SE23・43など

に並べたような形状を呈し、それぞれの中央が窪む。埋土は灰や炭片・焼土を含んだ黒灰色の粘質土で、周辺および底部がわずかに焼結し赤変していた。立ち上がり部が全く残存していなかったため上部の構造は不明である。南北 1.8 m、東西 1.0 m。

土取穴群 桃山・江戸時代前期の一群と江戸時代後期の一群がある。前者に属す SK338・349・352 などは平面形や底部の形状が変則的で、深さは砂礫層の分布に応じて変化している。これらは、ほぼ調査区中央部に集中している。それぞれからは 17 世紀代の土器類が出土しているが、いずれも少量である。後者は調査区中央やや北よりから南部にかけて分布しており、

3. 遺物

遺物の大半は土器・陶磁器類で、その他に瓦、鞆羽口・坩堝などの土製品がある。江戸時代後期に属するものが最も多く、桃山・江戸時代前期のものがそれに次ぐ。

奈良時代の土器類は土壌や包含層から出土したが、その総量はわずかで小片が多い。土師器杯C（1・3）・杯A（2）・皿（4）・甕、須恵器甕（5）などがある。

桃山・江戸時代前期の遺物はひとつの遺構からまとめて出土したものは少なく、SE335のもの以外

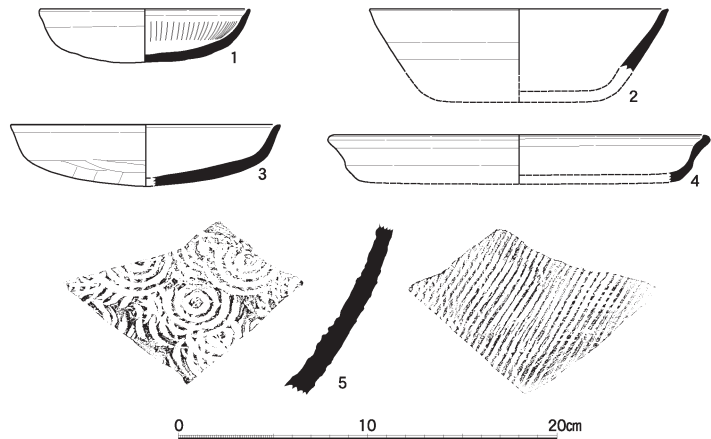


図 11 奈良時代の土器実測図（1：4）

外では土取りの土壌から散発的に出土しており、ここではそれらをまとめて記述する。

16世紀末～17世紀前期に位置づけられる土器類は総数 3,004 片あり、その内容と比率は表 3 の通りである。

土師器には皿、小壺、鍋、羽釜がある。皿には皿 S（16～30）、皿 Sb（11～15）、皿 N（8～10）など京都中心部のものと共通するものと底部内面に圈線を持たないタイプ（31～46 仮に皿 X とする）がある。皿 S はさらに口径で 3 群に分けることができる。皿 X には圈線を施さないものの形態的には皿 S と類似する皿 X 1 と皿 X 2（35・36）があるが、皿 X 1 は皿 S 同様に口径で 3 群に分けられる。皿 S あるいは皿 Sb と皿 S の組み合わせに影響を受けた構成の可能性がある。この皿 X はこれまでの伏見城下での調査でも出土例があるが、洛中ではほとんど確認されておらず、洛中に土師器を供給していた生産地の製品とは異なるものである。

瓦器には火入れ蓋（51）、燈火器（52）、壺蓋（53）、壺（54）、甕（95）がある。51 の外面は非常にていねいに磨かれている。

焼締陶器には備前壺（55・56）・播鉢（57）、信楽播鉢（59・60）、丹波盤（58）などがある。焼締陶器の中では播鉢が最も多く、約 7 割を占めている。

陶磁器類には瀬戸・美濃の製品や唐津、少数の輸入

表 2 桃山・江戸時代前期の土器類構成

器種	器形	破片数	比率 (%)		
土師器	皿	1377	75.1%	61.1%	
	鍋・焙烙	324	17.7%		
	炉・火鉢	68	3.7%		
	壺壺	6	0.3%		
	他・不明	59	3.2%		
	小計	1834	100.0%		
瓦器	炉・火鉢	193	76.3%	8.4%	
	瓦燈	7	2.8%		
	他・不明	53	20.9%		
	小計	253	100.0%		
国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	碗・皿	174	76.3%	36.7%
		鉢・向付	31	13.6%	
		壺・瓶	9	3.9%	
		大皿・鉢	7	3.1%	
		他・不明	7	3.1%	
		小計	228	100.0%	
	唐津	碗・皿	152	85.4%	28.7%
		鉢・向付	0	0.0%	
		大皿・鉢	4	2.2%	
		壺・瓶	19	10.7%	
		他・不明	3	1.7%	
		小計	178	100.0%	
伊万里	碗・皿	180	98.9%	29.3%	
	鉢	1	0.5%		
	壺	1	0.5%		
	他・不明	0	0.0%		
小計	182	100.0%			
産地不明	碗・皿	7	21.2%	5.3%	
	鉢	0	0.0%		
	壺・瓶	4	12.1%		
	他・不明	22	66.7%		
小計	33	100.0%			
国産施釉陶磁器計		621	100.0%	20.7%	
焼締陶器	甕	29	10.2%	9.5%	
	壺	17	6.0%		
	播鉢	194	68.3%		
	盤・大皿	2	0.7%		
	他・不明	42	14.8%		
	小計	284	100.0%		
輸入陶磁器	碗・皿	10	83.3%	0.4%	
	大皿・鉢	2	16.7%		
	壺	0	0.0%		
	他・不明	0	0.0%		
	小計	12	100.0%		
総数		3004		100.0%	

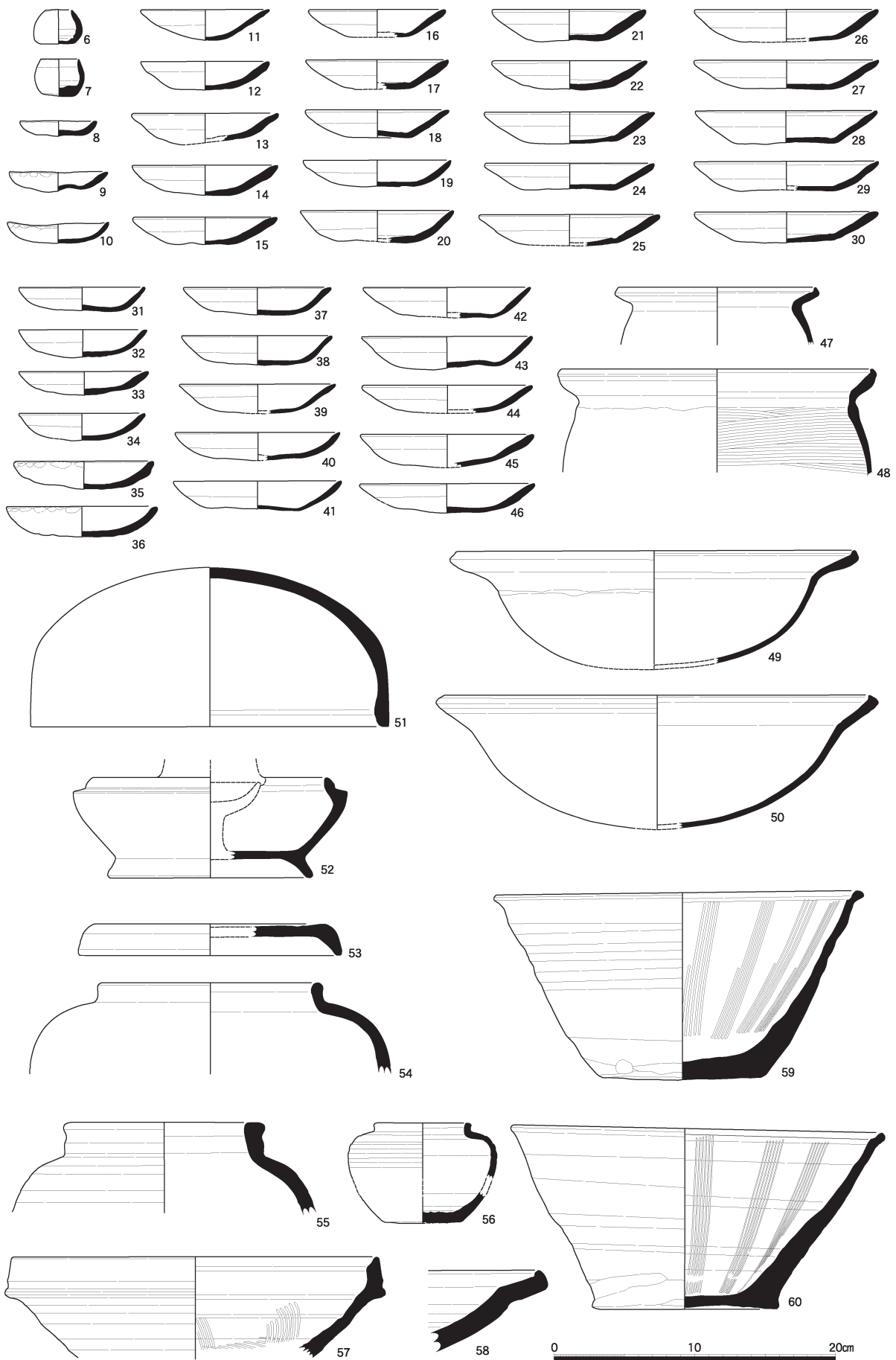


図12 桃山・江戸時代前期の遺物実測図 - 1 (1 : 4)

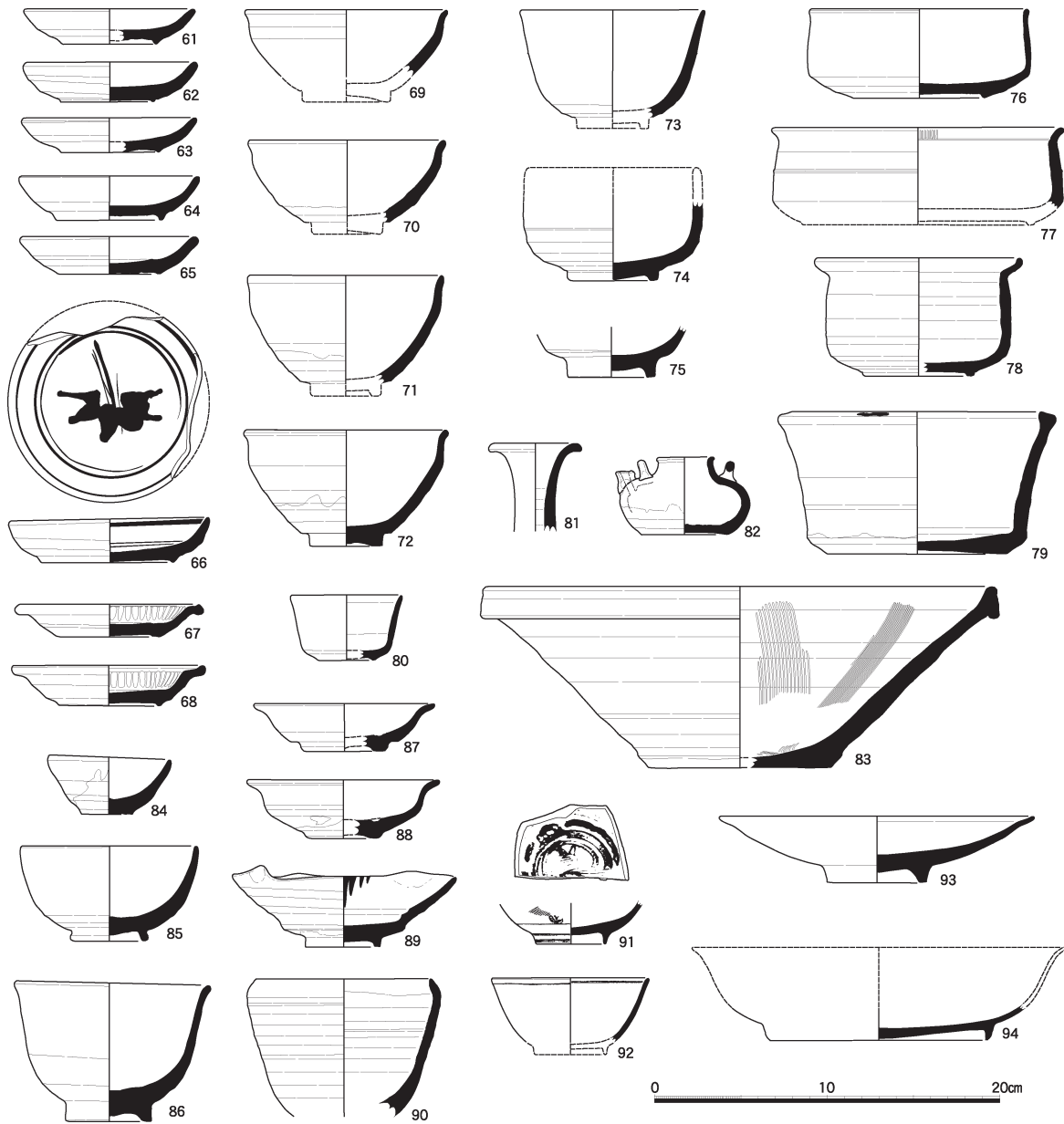


図13 桃山・江戸時代前期の遺物実測図 - 2 (1 : 4)

陶磁器のほか図示していないが伊万里染付などがある。瀬戸・美濃の製品には灰釉丸皿 (61～65)、絵志野皿 (66)、灰釉ソギ皿 (67・68)、天目椀 (69～72)、織部丸椀 (73)、灰釉椀 (75)、黄瀬戸椀 (74)、小杯 (80)、鉢 (76～78)、灰釉德利 (81)、鉄釉鉢 (79)、水注 (82)、搦鉢 (83) などがある。唐津には灰釉小杯 (84)、椀 (85・86)、皿 (87・88)、絵唐津皿 (89)、藁灰釉鉢 (90) などがある。

輸入陶磁器では明染付椀 (91・92)、白磁皿 (94) のほか李朝の白磁皿 (93) が1点出土している。

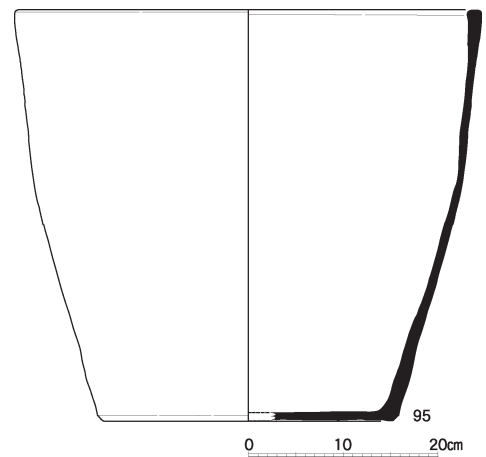


図14 SK71出土瓦器甕実測図 (1 : 8)

17世紀後半～18世紀前半および18世紀後半以降の土器類は、総破片数にして11,312片出土している。それぞれの内容と比率は表4に示した通りである。これらは当該期の各遺構から出土しているが少量ずつの出土例が多く、ここでは18世紀後半に属する多量の土器類がまとまって出土したSK207出土土器類について概説する。

SK207から出土した土器類には、土師器・瓦器・焼締陶器のほか京焼や伊万里など各種の施釉陶磁器がある。土師器には皿Sb(96・97)、皿S(98～103)、皿N(105)、小壺(104)、丸底鉢(106)、火鉢(108)、焙烙(109・110)、十能(111)などがある。このSK207を含め江戸時代後期の遺構から出土した土師器の皿の中には皿Xの系統に属するものは全く含まれておらず、洛中で出土する製品と共通するものばかりである。瓦器には燈火器の蓋(107)とミニチュアの羽釜(112)のほか火鉢の小片があるが、それらを含めても総量はわずかである。焼締陶器には備前建水(115・116)・搦鉢(121)、丹波壺(117・118)・徳利(120)、信楽搦鉢(121)がある。施釉陶器には軟質施釉陶器灯明皿(113・114)、瀬戸灰釉火入れ(122・123)・皿(125)・長石釉鉢(124)、唐津刷毛目片口(126)、京焼鉄釉鍋(127・128)・灰釉椀(129～136)・錆絵椀(137～144)・色絵椀(145～151)がある。伊万里の製品には染付皿(152～156)・椀(157

表3 江戸時代後期の土器類構成

器種	器形	17世紀後半～18世紀前半		18世紀後半以降		SK207		
		破片数	比率(%)	破片数	比率(%)	破片数	比率(%)	
土師器	皿	1265	53.0%	1347	74.3%	71	28.5%	
	鍋・釜	508	21.3%	115	6.3%	57	22.9%	
	炉・火鉢	422	17.7%	252	13.9%	120	48.2%	
	他・不明	193	8.1%	100	5.5%	1	0.4%	
	小計	2388	100.0%	1814	100.0%	249	100.0%	
瓦器	炉・火鉢	11	47.8%	6	46.2%	2	66.7%	
	瓦燈	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	
	他・不明	12	52.2%	7	53.8%	0	0.0%	
	小計	23	100.0%	13	100.0%	3	100.0%	
	国産施釉陶磁器	瀬戸・美濃	椀・皿	49	63.6%	39	76.5%	5
鉢・向付			16	20.8%	4	7.8%	7	58.3%
壺・瓶			1	1.3%	3	5.9%	0	0.0%
大皿・鉢			7	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
他・不明			4	5.2%	5	9.8%	0	0.0%
小計		77	100.0%	51	100.0%	12	100.0%	
唐津		椀・皿	109	70.3%	78	63.4%	7	21.2%
		鉢・向付	4	2.6%	1	0.8%	0	0.0%
		大皿・鉢	33	21.3%	15	12.2%	24	72.7%
		壺・徳利	7	4.5%	26	21.1%	2	6.1%
		他・不明	2	1.3%	3	2.4%	0	0.0%
小計		155	100.0%	123	100.0%	33	100.0%	
伊万里	椀・皿	1805	96.2%	1126	98.9%	148	95.5%	
	鉢	21	1.1%	5	0.4%	3	1.9%	
	壺	48	2.6%	6	0.5%	4	2.6%	
	他・不明	2	0.1%	1	0.1%	0	0.0%	
	小計	1876	100.0%	1138	100.0%	155	100.0%	
京焼	椀・皿	801	89.0%	406	83.9%	164	89.6%	
	鉢	18	2.0%	3	0.6%	0	0.0%	
	壺	24	2.7%	8	1.7%	1	0.5%	
	他・不明	57	6.3%	67	13.8%	18	9.8%	
	小計	900	100.0%	484	100.0%	183	100.0%	
産地不明	椀・皿	27	9.7%	33	25.0%	14	29.8%	
	鉢	83	29.9%	21	15.9%	9	19.1%	
	壺・瓶	87	31.3%	33	25.0%	10	21.3%	
	他・不明	81	29.1%	45	34.1%	14	29.8%	
	小計	278	100.0%	132	100.0%	47	100.0%	
国産施釉陶磁器計		3286	- 100.0%	1928	- 100.0%	430	- 100.0%	
焼締陶器	甕	122	21.9%	300	61.2%	33	32.4%	
	壺	74	13.3%	24	4.9%	23	22.5%	
	搦鉢	327	58.8%	148	30.2%	46	45.1%	
	盤・大皿	1	0.2%	2	0.4%	0	0.0%	
	他・不明	32	5.8%	16	3.3%	0	0.0%	
	小計	556	100.0%	490	100.0%	102	100.0%	
他・不明		0	-	30	-	0	0.0%	
総数		6253	- 100.0%	4275	- 100.0%	784	- 100.0%	

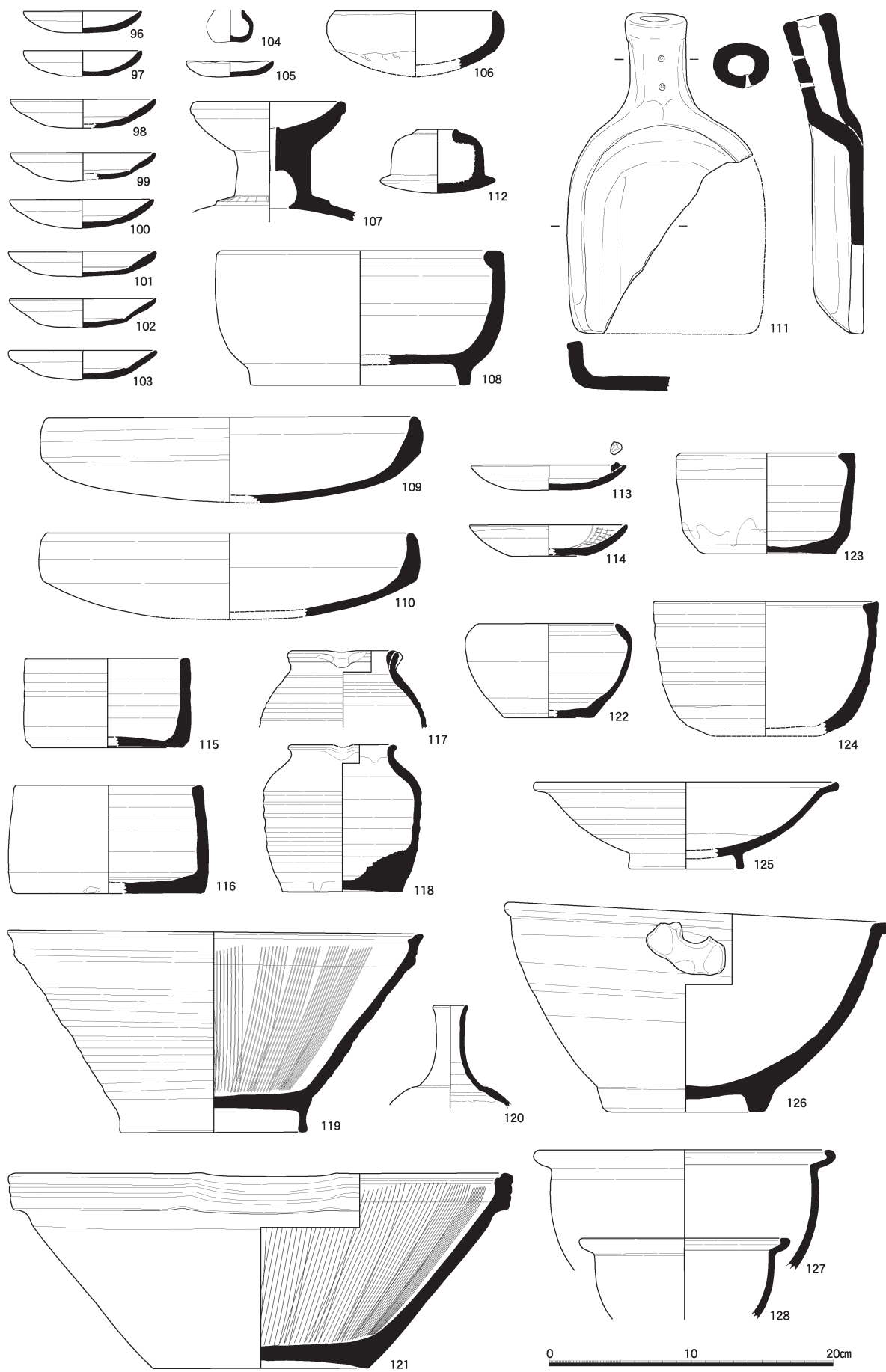


图 15 SK207 出土遺物実測図 - 1 (1 : 4)



图 16 SK207 出土遺物実測図 - 2 (1 : 4)

～160・166・167)・小杯(161・162)・佛飯器(164)・火入れ(168)のほか白磁佛飯器(163)、青磁椀(165)などがある。

第2章でふれたように江戸時代後期の複数の土壌から鞆の羽口が多量に出土した。SK218から出土した2点を図示しておく。外径が11cmと9cm前後の2種があるが、他の遺構から出土したものもすべてこの2種に限られており、先端部には鉄が溶着している。

また土器類以外では軒瓦や道具瓦がある。瓦1・4～6には金箔が施されていた痕跡が認められる。瓦1と瓦6がSK349、瓦2と瓦5がSK352、瓦3がSK257、瓦4がSK338など江戸時代前期の土取穴から、瓦7がSK207、瓦8がSE26、瓦9がSK229

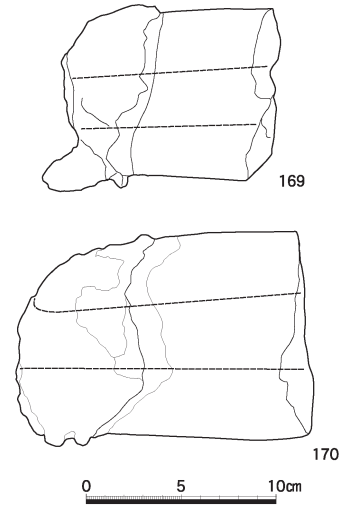


図17 鞆羽口実測図(1:4)

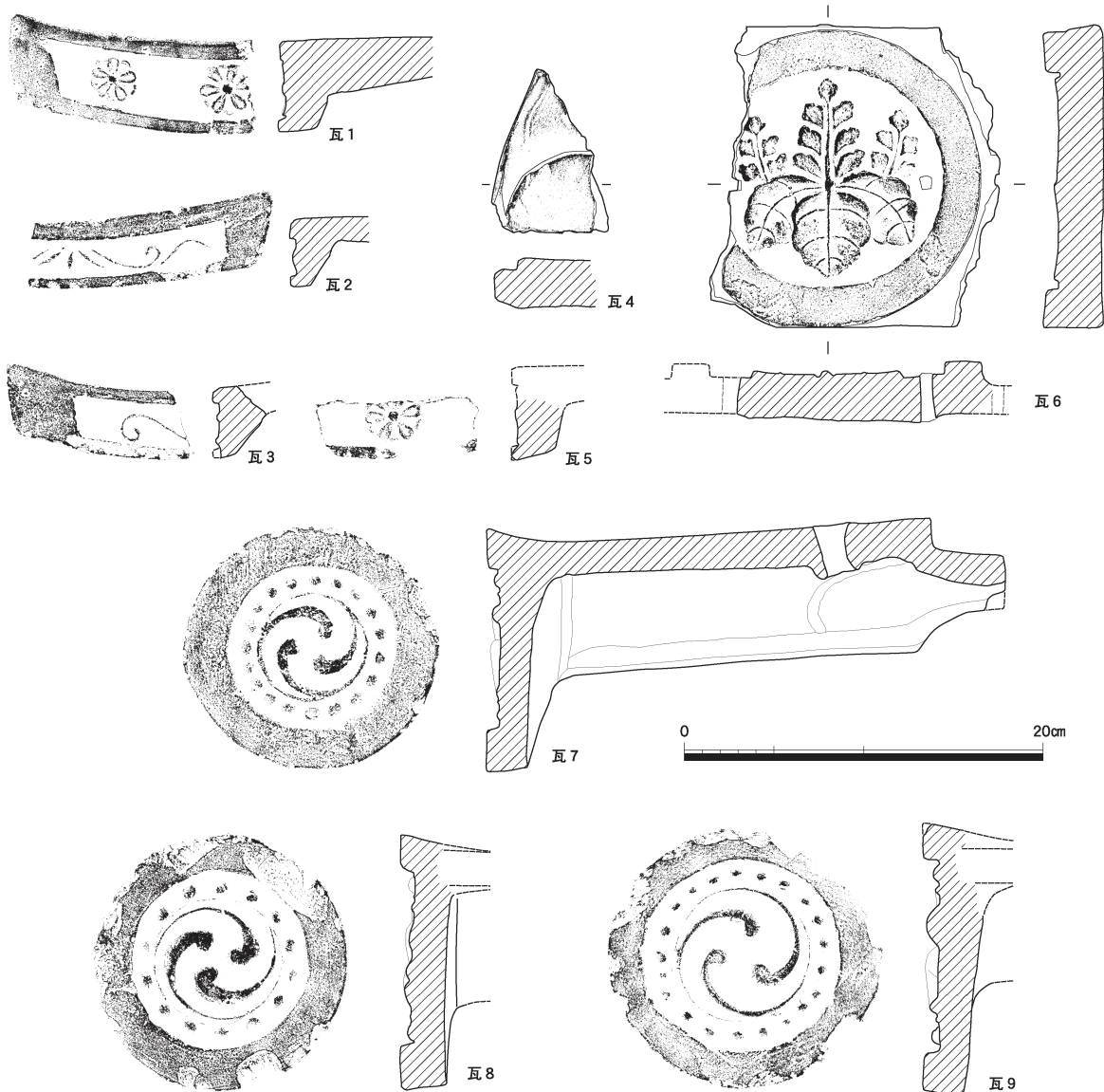


図18 瓦類拓影・実測図(1:4)

など江戸時代後期の遺構からの出土である。

4. ま と め

今回の調査によって検出した遺構は、わずかな奈良時代のものを除くと、桃山時代以降のものに限られる。奈良時代の遺構は竪穴1棟と土壇および包含層を一部で確認しただけであるが、御香宮付近で行った以前の調査で奈良時代の遺物が多量に出土していることや、今回の調査地北方に推定されている板橋廃寺との関連など、周辺の当期の状況が今後明らかにされてゆくことが期待できる。

近世伏見の成立期である桃山時代の遺構は、調査区北部で一部検出したものの、江戸時代以降の遺構群によって破壊されており、特に調査区中央部以南ではほとんど検出できなかった。また、江戸時代前期の遺構は2基の井戸・溝・柵などのほか大半が土取りと思われる不整形な土壇が主体で、武家屋敷や町屋などの存在は確認できなかった。北部の遺構の状況からみて桃山時代にはある程度の土地利用がなされていたものと考えられるが、伏見城下の西端に近いこともあり、江戸時代の早い段階で土取りが行われるような空地となっていたのかもしれない。そして、江戸時代後期の製鉄関連の遺構も、こうした状況を前提に成立した可能性が高い。

表4 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
奈良時代	土師器、須恵器	1箱	土師器4点、須恵器1点	0箱	0箱
桃山時代～ 江戸時代前期	土師器、瓦器、焼締陶器、 施釉陶器、染付、白磁、瓦	21箱	土師器45点、瓦器5点、焼締陶 器6点、施釉陶器30点、染付2 点、白磁2点、瓦6点	11箱	5箱
江戸時代後期	土師器、瓦器、焼締陶器、 施釉陶器、染付、白磁、青 磁、瓦、鞆羽口	84箱	土師器15点、瓦器2点、焼締陶 器7点、施釉陶器32点、染付15 点、白磁1点、青磁1点、瓦3 点、鞆羽口2点	24箱	53箱
合 計		106箱	179点 (13箱)	35箱	58箱

付表1 奈良時代の土器類一覧表

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
1		土師器 杯C	11.2	2.8		5YR6/6 橙色	放射1段暗文 細砂粒多く含む
2		土師器 杯(A)	15.8			5YR6/4 にぶい橙色	外面の一部にヘラケズリ痕
3		土師器 杯C	14.2	3.2		5YR6/6 橙色	底部外面ヘラケズリ
4		土師器 皿A	20.2	2.6		5YR6/6 橙色	底部外面粗いミガキ
5		須恵器 甕				2.5Y7/2 灰黄色	



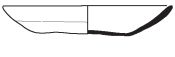







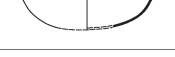




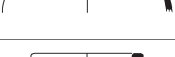

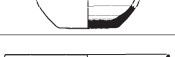


付表2-1 桃山・江戸時代前期の土器類一覧表(1)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
6		土師器 小壺	1.8	2.5		2.5Y9/2 灰白色	
7		土師器 小壺	2.7	2.7		7.5YR8/1 灰白色	
8		土師器 皿N	5.5	1.1		7.5YR8/3 浅黄橙色	
9		土師器 皿N	7.0	1.4		7.5Y8/3 浅黄橙色	
10		土師器 皿N	7.2	1.5		7.5YR7/4 にぶい橙色	
11		土師器 皿Sb	9.2	2.2		5YR8/3 淡橙色	やや黒変する
12		土師器 皿Sb	9.2	2.0		7.5YR8/7 浅黄橙色	
13		土師器 皿Sb	10.5	2.5		7.5YR7/4 にぶい橙色	灯明皿
14		土師器 皿Sb	10.4	2.2		10YR7/2 にぶい橙黄色	灯明皿
15		土師器 皿Sb	10.3	2.0		10YR8/2 灰白色	灯明皿
16		土師器 皿S	9.8	2.0		10YR8/3 浅黄橙色	
17		土師器 皿S	10.2	2.1		10YR8/3 浅黄橙色	
18		土師器 皿S	10.3	2.0		5YR8/4 淡橙色	

付表2-2 桃山・江戸時代前期の土器類一覧表(2)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
19		土師器 皿S	10.5	2.0		10YR7/2 にぶい黄橙色	
20		土師器 皿S	11.0	2.3		7.5Y7/6 橙色	
21		土師器 皿S	11.0	2.3		7.5YR8/3 浅橙色	
22		土師器 皿S	11.1	2.1		7.5YR8/4 浅橙色	灯明皿
23		土師器 皿S	12.1	2.2		7.5YR7/3 にぶい黄橙色	
24		土師器 皿S	12.1	1.9		7.5YR7/3 にぶい黄橙色	灯明皿
25		土師器 皿S	12.9	2.2		5YR8/4 淡橙色	
26		土師器 皿S	13.1	2.3		10YR8/3 浅黄橙色	灯明皿
27		土師器 皿S	13.2	2.1		7.5YR8/3 浅橙色	
28		土師器 皿S	13.0	2.3		10YR8/2 灰白色	灯明皿
29		土師器 皿S	13.2	2.1		10YR8/3 浅黄橙色	灯明皿
30		土師器 皿S	13.1	2.3		10YR8/2 灰白色	灯明皿
31		土師器 皿X	9.0	1.8		10YR8/4 浅黄橙色	
32		土師器 皿X	9.2	2.0		7.5YR7/3 にぶい黄橙色	
33		土師器 皿X	9.3	1.7		10YR7/2 にぶい黄橙色	灯明皿
34		土師器 皿X	9.0	1.9		10YR8/3 浅黄橙色	
35		土師器 皿X	10.0	2.0		5YR7/3 にぶい橙色	
36		土師器 皿X	10.8	2.2		5YR7/3 にぶい橙色	
37		土師器 皿X	10.6	2.0		5YR7/4 にぶい橙色	灯明皿
38		土師器 皿X	10.8	2.1		10YR9/3 灰白色	





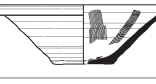


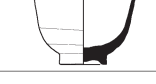
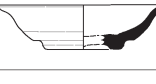

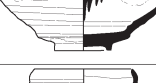
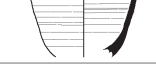





付表2-3 桃山・江戸時代前期の土器類一覧表(3)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
39		土師器 皿X	11.2	2.1		2.5Y8/2 明赤灰色	灯明皿
40		土師器 皿X	11.8	2.0		10YR7/2 にぶい黄橙色	
41		土師器 皿X	12.0	2.1		7.5YR8/2 灰白色	
42		土師器 皿X	12.0	2.2		10YR8/4 浅黄橙色	
43		土師器 皿X	12.2	2.4		10YR8/3 浅黄橙色	
44		土師器 皿X	12.2	2.0		2.5Y8/2 明赤灰色	灯明皿
45		土師器 皿X	12.4	2.3		2.5Y8/3 明赤灰色	
46		土師器 皿X	12.5	2.1		7.5YR7/1 明褐灰色	
47		土師器 羽釜	14.0			7.5YR8/3 淡赤灰色	
48		土師器 羽釜	22.7			7.5YR8/7~8 黄橙色	内面ハケメ調整
49		土師器 焙烙	29.1			7.5YR5/3 にぶい褐色	内面炭化物付着
50		土師器 焙烙	30.2	9.5		7.5YR7/4 にぶい橙色	内面炭化物付着
51		瓦器 火入れ蓋	25.5	11.3		黒灰色	断面7.5YR7/4 外面ていねいなヘラミガキ
52		瓦器 瓦燈	16.6		14.6	黒灰色	断面7.5YR7/4 体部外面ミガキ
53		瓦器 壺蓋	18.7	2.2		黒灰色	断面5Y9/2
54		瓦器 壺	16.0			黒灰色	断面10YR7/4
55		備前 壺	14.4			2.5YR5/1 赤灰色	断面5PB5/1
56		備前 壺	6.9	7.1	5.4	2.5YR3/4 明赤褐色	断面2.5YR6/2 内面鉄分付着
57		備前 播鉢	26.2			2.5YR4/2 灰色赤	
58		丹波 盤				7.5R2/3 極暗褐色	断面5P7/1





付表 2-4 桃山・江戸時代前期の土器類一覧表(4)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
59		信楽 播鉢	26.4	13.4	11.6	5YR6/6 橙色	内面底部付近磨減
60		信楽 播鉢	26.6	13.1	13.3	5YR6/4 にぶい橙色	断面5Y8/3
61		美濃 灰釉丸皿	10.0	2.1	5.4	2.5Y9/1 淡灰白色	断面10YR7/3 底部外面にメアト
62		美濃 灰釉丸皿	10.1	2.3	5.5	5Y6/4 オリーブ黄色	断面10YR8/3 底部外面に輪トチ痕
63		美濃 灰釉丸皿	10.2	2.0	5.8	5Y7/3 浅黄色	断面7.5YR8/3 底部外面に輪トチ痕
64		美濃 灰釉丸皿	10.5	2.6	6.0	5Y7/3 浅黄色	断面10YR8/1 底部外面に輪トチ痕
65		美濃 灰釉丸皿	10.4	2.2	6.0	5Y7/4 浅黄色	断面10YR8/2 底部内面釉ハギ 底部外面に輪トチ痕
66		美濃 鉄絵丸皿	11.7	2.6	7.7	2.5Y8/2 灰白色	断面2.5Y8/1 底部内面三方にメアト
67		美濃 折縁ソギ皿	11.0	1.9	6.0	5Y7/3~4 浅黄色	断面7.5YR8/3 底部内面釉ハギ 底部外面に輪トチ痕
68		美濃 折縁ソギ皿	11.3	2.4	6.0	5Y6/4 オリーブ黄色	断面7.5YR7/4 底部内面釉ハギ 漆を塗布 底部外面に輪トチ痕
69		美濃 天目碗	11.8			2.5YR2/2 黒褐色	断面2.5Y8/1
70		美濃 天目碗	11.5			2.5YR2/2 黒褐色	断面7.5YR8/3
71		美濃 天目碗	11.4			7.5YR2/1 黒色	断面7.5YR8/2
72		美濃 天目碗	11.9	6.7	4.2	10YR3/3~4 暗褐色	断面7.5Y9/1 外面下半に鉄化粧
73		織部 丸碗	10.8			5GY5/6 暗緑色	断面2.5Y8/2
74		黄瀬戸 半筒碗			5.2	10YR8/1 灰白色	断面10YR8/4 高台ケズリ後ナデ調整
75		美濃 灰釉丸碗			5.1	2.5GY7/6 オリーブ灰色	断面N7/0 高台下端面を釉ハギ
76		黄瀬戸 鉢	12.8	5.5	7.4	5Y8/3 淡黄色	断面10YR8/4
77		黄瀬戸 鉢	17.0			7.5Y8/3 淡黄色	断面7.5YR8/3
78		黄瀬戸 鉢	12.0	6.8	6.5	2.5Y8/2 灰白色	断面10YR8/3

付表2-5 桃山・江戸時代前期の土器類一覧表(5)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
79		美濃 鉄釉鉢	16.0	8.2	10.4	10YR3/1 黒褐色	断面7YR8/4 口縁上端部を釉ハギ
80		黄瀬戸 杯	6.5	3.8	3.0	2.5GY8/1 灰白色	断面7.5Y9/1 底部外面にメアト
81		美濃 灰釉徳利	5.4			7.5Y7/2 灰白色	断面5PB8/1
82		美濃 鉄釉水注	3.4	4.5	5.0	7.5YR4/4~ 3/2 褐色	底部外面に糸切痕
83		美濃 鉄釉播鉢	28.8	10.5	10.6	2.5YR3/1 暗赤灰色	断面10YR8/1 底部外面に糸切り痕 内面下部磨滅
84		唐津 灰釉杯	7.2	3.4	2.9	5Y6/2 灰オリーブ色	断面2.5Y6/2 内面三方にメアト
85		唐津 灰釉碗	10.5	5.5	4.6	10YR7/2 にぶい黄橙色	断面10YR7/3
86		唐津 灰釉碗	11.4	8.2	5.0	10Y6/1 褐灰色	断面5P6/1
87		唐津 灰釉皿	10.5	2.8	4.8	2.5Y6/3 にぶい黄色	断面10YR7/3 内面にメアト
88		唐津 灰釉皿	11.2	3.4	4.2	10YR7/3 にぶい黄橙色	断面5YR7/4 内面にメアト
89		絵唐津 皿	13.1	4.7	4.4	5Y7/3 浅黄色	断面5R8/1
90		唐津 藁灰釉鉢	10.0			7.5Y7/1 白濁する	断面5Y8/2 内面無釉
91		明染付 碗			4.0	素地白色	わずかに青みかかる
92		明染付 碗	9.2			素地白色	均一な透明釉
93		李朝白磁 皿	16.3	3.8	5.8	素地白色	高台端部にメアト6箇所 釉は透明感が強く、わずかに緑かかる
94		明白磁 皿			12.6	素地白色	釉は失透気味
95		瓦器 甕	50.0	44.1	31.0	黒灰色	胎土は細粒 外面口縁部から下方 約20cmほど磨滅 SK71埋甕















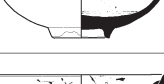


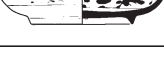
付表3-1 SK207出土土器類一覧表(1)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考	
96		土師器 皿Sb	8.4	1.5		7.5YR8/1 灰白色		
97		土師器 皿Sb	8.4	1.8		7.5YR8/1 灰白色	灯明皿	
98		土師器 皿S	10.3	2.0		5YR7/4 にぶい橙色		
99		土師器 皿S	10.3	2.0		7.5YR8/2 灰白色	灯明皿	
100		土師器 皿S	10.2	2.0		10YR8/2 灰白色		
101		土師器 皿S	10.5	1.8		10YR8/1 灰白色		
102		土師器 皿S	10.4	2.1		7.5YR8/2 灰白色	灯明皿	
103		土師器 皿S	10.6	2.1		7.5YR7/2 明褐灰色	灯明皿	
104		土師器 小壺	2.0	2.3		10YR8/3 浅黄橙色		
105		土師器 皿N	6.2	1.1		7.5YR8/2 灰白色		
106		土師器 鉢	11.5			10YR8/4 浅黄橙色		
107		瓦器 燈火器蓋				7.5YR7/4 にぶい橙色	上部の皿状部分を灯明に使用	
108		土師器 火鉢	20.2	9.5	15.6	10YR7/3 にぶい黄橙色	内面口縁部から3cmほど煤が着く	
109		土師器 焙烙	26.2	6.0		10YR7/3 にぶい黄橙色	底部型作り	
110		土師器 焙烙	26.0			10YR6/4 にぶい黄橙色	底部型作り	
111		土師器 十能				5YR7/3 にぶい黄橙	取っ手以外を外型で成形	
112		瓦器 ミニチュア釜	2.7	4.5		黒灰色	断面5Y7/2 外面鏝から上部を密にミガキ	
113		軟質施釉 陶器 灯明皿	11.0	1.8		2.5YR4/8 赤褐色	断面7.5YR5/3	
114		軟質施釉 陶器 灯明皿	11.2	2.2		7.5Y6/3 オリーブ黄色	断面2.5Y7/2	
115		備前 建水	11.6	6.4	11.4	7.5YR5/4 にぶい褐色	断面5YR7/4 底部外面に刻印	



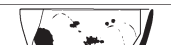


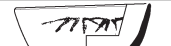







付表3-2 SK207出土土器類一覧表(2)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
116		備前 建水	12.2	7.7	13.5	7.5YR5/2 灰褐色	断面2.5YR6/6 底部外面に刻印
117		丹波 壺	7.8			7.5YR4/3 褐色	断面2.5Y6/2 内面に鉄分付着
118		丹波 壺	7.6	10.4	8.5	5YR4/2 灰褐色	断面5YR7/4 外面鉄釉 内面に鉄分付着 底部糸切り
119		信楽 播鉢	29.4	14.3	13.3	2.5YR3/2 暗赤褐色	断面10YR8/3 鉄化粧
120		丹波? 鉄釉徳利	2.5			5YR3/2 暗赤褐色	断面10YR4/2
121		備前 播鉢	35.7	13.8	15.2	5YR5/4 にぶい赤褐色	断面10YR4/1 外面ケズリ調整
122		瀬戸 灰釉火入	9.6	6.6	6.4	2.5Y8/1 灰白色	断面2.5Y7/1 内面無釉
123		瀬戸 灰釉火入	12.5	7.1	9.8	5Y8/2 灰白色	断面2.5Y8/2 内面無釉
124		瀬戸 長石釉鉢	15.9			5Y7/3 浅黄色	断面5Y8/1 体部外面一部に銅緑釉
125		瀬戸 灰釉皿	21.6	6.2	8.2	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	断面7.5Y8/1 釉は透明感が強い
126		唐津 刷毛目 片口鉢	27.2	14.8	11.2	2.5YR7/2 明赤灰色	断面10R4/6 刷毛目不明瞭
127		京焼 鉄釉鍋	21.4			7.5YR3/2 黒褐色	断面10YR6/1
128		京焼 鉄釉鍋	15.0			5YR4/2 灰褐色	断面7.5YR8/4
129		京焼 椀	9.2	5.4	3.6	7.5Y7/3 にぶい橙色	断面5Y7/1 底部内面に小さなメアト
130		京焼 椀	9.0	5.2	3.2	5GY7/1 明オリーブ灰色	断面5Y7/2
131		京焼 椀	9.8	5.7	3.6	7.5Y7/2 灰白色	断面白色
132		京焼 椀	9.6	6.0	4.5	5Y7/3 浅黄色	断面5Y8/2
133		京焼 椀	9.5	6.1	2.7	5Y6/2 灰オリーブ色	断面10YR6/2 砂粒多く含む 外面全面をケズリ
134		京焼 椀	7.0	5.5	5.6	2.5Y7/3 浅黄色	断面5Y7/1 内面2.5Y2/1 体部外面飛びカンナ
135		京焼 椀	11.3	7.4	4.5	5GY7/1 明オリーブ灰色	断面2.5YR6/8 高台ケズリ後ナデ調整

付表3-3 SK207出土土器類一覧表(3)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
136		京焼鉢	13.4	6.4	7.5	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	断面10YR8/2 内面にメアト
137		京焼 銚絵鉢	9.8	4.5	4.5	5Y7/1 灰白色	断面10YR8/3
138		京焼 銚絵鉢	10.2	5.7	4.2	5Y6/2 灰オリーブ色	断面5Y7/2 内面にメアト
139		京焼 銚絵鉢	10.6	5.6	4.5	10GY7/1 明緑灰色	断面5Y7/1 内面にメアト
140		京焼 銚絵鉢	11.3	5.6	4.6	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	断面2.5Y7/1 内面にメアト
141		京焼 銚絵鉢	9.9	5.4	3.5	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	断面5Y7/1
142		京焼 銚絵鉢	10.6	5.8	4.0	2.5Y8/1 灰白色	断面2.5Y8/3 内面三方に小さなメアト
143		京焼 銚絵鉢	10.8	5.7	4.3	2.5Y7/4 浅黄色	断面2.5Y8/1 内面にメアト
144		京焼 銚絵鉢	11.0	5.2	3.7	2.5GY6/2 オリーブ灰色	断面5Y7/3 内面にメアト
145		京焼 色絵鉢	9.2			5Y6/3 オリーブ黄色	断面5Y7/1
146		京焼 色絵鉢	9.5	5.8	3.1	5Y7/3 浅黄色	断面7.5Y8/1 内面底部中央に梅花文の色絵
147		京焼 色絵鉢	9.5	5.5	2.9	5GY7/1 明オリーブ灰色	断面5Y7/1
148		京焼 色絵鉢	10.8	5.1	3.6	2.5Y7/2 灰黄色	断面5Y7/1 内面の数箇所小さな色絵
149		京焼 色絵鉢	12.0	4.5	4.0	5Y8/2 灰白色	断面2.5Y8/2
150		京焼 色絵鉢	12.1			5Y7/2 灰黄色	断面2.5Y7/2
151		京焼 色絵鉢			3.6	2.5Y7/3 浅黄色	断面2.5Y8/2 内面メアト上に色絵
152		伊万里 染付皿	12.8	4.1	4.2	素地白色	内面底部を蛇の目軸ハギ
153		伊万里 染付皿	13.3	3.7	7.4	素地白色	
154		伊万里 染付皿	13.0	3.7	7.4	素地白色	
155		伊万里 染付皿	13.0	3.0	8.0	素地白色	底部外面ハリ支え痕

付表 3-4 SK207出土土器類一覧表(4)

No.	実測図	器種・器形	口径	器高	底径	色調	備考
156		伊万里 染付皿	18.5	3.2	11.8	素地白色	底部外面ハリ支え痕
157		伊万里 染付碗	10.3	5.6	4.3	素地白色	
158		伊万里 染付碗	10.1	5.8	4.0	素地白色	
159		伊万里 染付碗	10.9	5.0	4.7	素地白色	内面底部を蛇の目釉ハギ
160		伊万里 染付碗	10.8	5.2	4.2	素地白色	内面底部を蛇の目釉ハギ
161		伊万里 染付杯	7.6	4.3	3.2	素地白色	
162		伊万里 染付杯	8.7	4.9	3.5	素地白色	
163		伊万里 白磁仏飯器	6.1	5.2	4.0	素地白色	
164		伊万里 染付仏飯器	7.7	6.5	4.0	素地白色	
165		伊万里 青磁碗	13.3	5.2	5.0	素地白色	内面底部を蛇の目釉ハギ
166		伊万里 染付碗	13.3	6.1	4.4	素地白色	内面底部を蛇の目釉ハギ
167		伊万里 染付碗	16.4	7.5	6.5	素地白色	内面底部を蛇の目釉ハギ
168		伊万里 染付火入	10.9	7.6	7.2	素地白色	内面無釉

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふしみじょうあと							
書名	伏見城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2004-18							
編著者名	平尾政幸							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2005年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしみじょうあと 伏見城跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 しもいたばしちょう・たか 下板橋町・鷹 じょうちょう・たけなかつちやう 匠町・竹中町	26100	1172	34度 56分 02秒	135度 45分 54秒	2005年1月 11日～2005 年3月25日	766㎡	マンション 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡	平城跡	奈良時代	竪穴住居、土壇	土師器、須恵器				
		桃山時代～ 江戸時代前期	土壇、溝、井戸、 柵、炉跡、Pit	土師器、瓦器、焼締陶 器、施釉陶器、染付、 白磁、瓦				
		江戸時代後期	土壇	土師器、瓦器、焼締陶 器、施釉陶器、染付、 白磁、青磁、鞆羽口、 瓦				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-18
伏見城跡

発行日 2005年5月31日

編集

発行所 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の1

〒602-8435 TEL 075-415-0521

<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地

〒604-0093 TEL 075-256-0961